

○「心身の健康」に係る主な意見

No.	意見内容	発言者	区分	発言部会
1	<p>今確かに全体としては高くなっているが、ここでは気をつけた方がいいだろうというのが、「こころ」の方が、やはり分けて分析はしなければならぬのではないかなと思っている。傾向として、資料4ですかね。</p> <p>足調査資料4の2ページ目のところの6項目めに「からだ」と「健康」というのがまず分かれていて、ここが全体のところからすると若干減っていると見ていいのですかね、これ。</p> <p>全体的には両方とも少し下がっているというのと、あと今回の同じ資料の9ページのところにコロナの感染症の影響といったところだと、やはりここはコロナの影響ということになると少し「からだ」と「こころ」というのが数値としては少し大きく出てくるかなといったところで、さらに10ページ以降のまとめでいただきました自由記載欄、ここを見ましても①ですか、心身の健康のところはかなり記載の方多いですね。いろいろチェックさせていただきましたけれども、心のダメージですとか、ストレスといった多くの不安、まさに不安といったところが結構ありますので、ここは注意しておいた方がいいのではないかなといったところでは感じます。</p>	山田委員	意見	第2回
2	<p>山田委員の話と真逆の話になるかもしれないが、経年変化について資料5-2を見ると、「こころ」と「からだ」が一緒になっていて、何とどンドンよくなってきているという変な結果となっている。</p> <p>いいことではあるのだが、コロナの影響でよくなったのかなど。かといって補足調査の方ではちょっと下がっていった、内容の中では「こころ」も心身も両方ちょっとずつ変わっているというちょっと逆な結果はあるのですけれども、全体的には人と接触は少ないので、楽。</p>	Tee委員	意見	
3	<p>私は、そこところは本当はもう少し大きく出るかなと思ったところだったのだが、個人的な予想よりは数値としてはそれほど大きな変化になっていない。一方で、ここは年齢によるのではないかなという気がして。</p> <p>年齢の高い方、少なくとも自由記載欄を拝見するところでは、今までなかなか外に出られない。これ自由時間のところとも実はちょっとかかってくる、充実のところはかかるのですけれども、やはり先週若菜委員がおっしゃった年配の方にとっては、例えば地域のつながり、地域に参加できないと寂しいといった、そういうところを検討するところがありまして、これは少々年代で見てみるとまたちょっと違う傾向が出てくるのではないかと。</p> <p>若い人の方がそんなにストレスがかからないと。</p> <p>基本的にはですね、煩わしい人間関係とか、ちょっとそういうふうなどちらかという若い人に</p>	山田委員	第1回 資料6-2	
4	<p>これクロスすればいいのか。もうとってあるか。でも、これは全体調査だから、補足調査の年齢階層クロスはとれるのでしたか、数減ってしまうのかな、とれることはとれるか。</p> <p>だから若年、中年、高年の3段階ぐらいに分けてやればとれないわけではないということですね。今山田委員がおっしゃることは、これ等しく影響があるわけではなく、行動様式に対して、違うのかな。</p>	吉野部会長	第1回 資料6-2	
5	<p>どうして上がるのか、基準年に比べて、令和3年は「こころ」や「からだ」が下がる。令和4年は回復してきて上がっている。あとはティー先生がおっしゃるように、トレンドとして上がっているのではないかと。平成28年から見ても「こころ」や「からだ」のといえはよくはなっているから、これ政策的効果が出ているということか。保健、福祉行政の充実が「こころ」や「からだ」の健康の実感度を上げるということに反映されていると言えるか。</p>	吉野部会長	意見	

6	<p>資料6—2で「こころ」の健康を見ているが、年齢階層ごとの「やや感じる」あるいは「感じない」の回答の割合の3段表が出てくるのですが、30代、40代は仕事・学業におけるストレスが一番高く、50代からになってくるとそれ以外のストレスが高くなってきて、そして60代過ぎると「こころ」なのだけでも、「からだ」に影響するということで、やっぱり何となく<u>ライフステージを見ると雰囲気分かるなという要因で動いているな</u>と思う。</p> <p>そして、仕事のストレスがどうかというと、私も25年働いているのですが、時間も大分減ったかなと。要は、働き方改革で超過勤務も減ってきていますし、そういえば減ってきているなど。あとは、セクハラ、パワハラに対する意識が高くなってきて、そういったところも減ってきているかなという雰囲気は感じているので、この仕事のストレスが減ってきている可能性は、私は十分に想定できるかなと。そういう意味では、そういった政策の効果はあったのではないかなと個人的には感じる。</p>	和川委員	意見	第2回
7	<u>働く環境はよくなってきてはいるかもしれないが、また戻るのだけれども、それは給料とかに直結しない。</u> そうになってしまう。「こころ」と「からだ」は健康になった。結構と思うけれども、仕事する人には	Tee委員	意見	
8	でも、 <u>幸福実感値に影響を与えているのは給料よりも健康の方なのではないかと。</u> だから、給料をないがしろにするという意味ではないとは思いますが、確かに給料が上がるかということ、そうはならないかもしれない。	吉野部会長	意見	
9	今和川委員さんがおっしゃっていた資料6—2の心身の健康の属性別のところ、ここに確かに「こころ」の健康も年代別でも出していただいている。これで見ても、私が先ほど推測として申し上げたが、例えば40代、50代、60代、70代、80代以上の方と比べて、少なくとも70歳以上の方を拝見しても確かに③の「あまり感じない」、「感じない」の方は、確かに「感じる」、「やや感じる」の方と比べると確かにかなり少ないですね。割合的には恐らくもう少し若い世代の方の方が、つまり「感じる」、「やや感じる」と「あまり感じない」、「感じない」、「どちらともいえない」は抜かして。その割合で見ると、大きく変わらない可能性はあるかな。	山田委員	意見	